7月 20 日（月曜日）「結局のところ」

【新改訳 2017】

伝道者の書　12•8－14

「結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。」（13、14節）

冒頭の聖句は、本書の結びのことばで、これまで述べてきた多くの議論の結論です。

「神を恐れよ。神の命令（=みことば）を守れ。これが人間にとってすべてである」と強く教えています。神のことばを聞いて行うことも聞かないで行うことも、すべてさばかれることを絶対に忘れるなと警告しています。

ニーチェは「神は死んだ」と言い、神を無視した実在哲学を唱えましたが、その生涯は気の毒なほど不幸なものでした。神は侮られる方ではありません。パウロは言いました。「神について知られることは、彼らに明らかです。‥‥‥弁解の余地はないのです」（ローマ 1•19、20）。どうぞ、間違わないようにしまし

ょう。

～祈り～

主よ。御名をほめたたえます。どうか、あなたのおことばを守り、あなたをすべてとして生きることができるように助けてください。

【学びのために】

協会訳:「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである」(13、14節)。